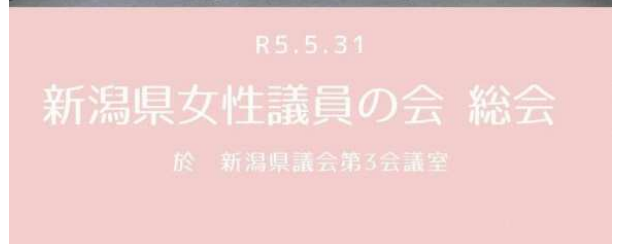


# 出張報告

報告日 2023年 6月 5日

会派名	暮らしと笑顔
報告者氏名	池野里美
種別	<input type="checkbox"/> 調査研究（ <input type="checkbox"/> 行政視察） <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用務	新潟県女性議員の会 総会、研修会参加
日時	R5/5/31(水) 13:30 ~ R5/5/31(水)16:00
場所 (会場)	新潟県庁 議会第3会議室
調査項目等	・新潟県女性議員の会総会・研修会への参加
概要	<p>13:30～</p> <p>○令和5年度新潟県女性議員の会総会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(公財)新潟県女性財団理事長：畠山典子様の挨拶</li> <li>・新潟県知事：花角英世様の挨拶 (代理：笠鳥公一副知事)</li> </ul> <p>13:45～</p> <p>○議事</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 令和4年度 事業報告、決算報告、監査報告</li> <li>② 令和5年度 役員選出</li> <li>③ 令和5年度 事業計画、予算</li> </ol> <p>14:30～</p> <p>○新潟県女性議員の会令和5年度研修会</p> <p>「インクルーシブ教育の構築、学校における医療的ケアと新潟県の現状」</p> <p>講師：新潟県教育庁義務教育課特別支援教育推進室：■■様、■■様、■■様</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1・インクルーシブ教育の構築</li> <li>2・学校における医療的ケアと新潟県の現状</li> </ol> <p>※別紙、資料添付。</p>



## 所感等

### ○新潟県女性議員の会総会について

・新潟県は男女共同参画に力を入れ、新潟県女性財団ができて今年で30年。昨年は、職員も倍増し、女性も男性も働きやすい社会の実現を目指し事業も拡大している。しかし、県内の女性管理職の比率は10%、働く女性の50%が非正規、特に若い女性の転出超過も多いことが課題。新潟県内の各市町村の女性議員が超党派で交流・研修し、女性議員の資質向上を図るとともに、各自治体および新潟県の発展のために、女性の視点を生かして連携していくこの会の意義は大きいと感じる。

・各市町村の好事例を情報共有したり、視察したりすることで、柏崎市の発展に生かせるよう学んでいきたい。

### ○研修会

#### 1・インクルーシブ教育システムの構築について

新潟県では、特別支援教育がスタートして以来、保護者の理解が進む中で、子どもにあった教育を望む保護者が年々増加し、特別支援学校、小中学校特別支援学級の在籍者数及び通級指導室の利用者が急増している。学校教育の現場において、多様性を認め合い、障害のある子もない子も、できるだけ同じ場で共に学ぶ事はこれからの教育の中でとても大切である。柏崎でも、ぜひ力を入れていくべきと感じた。

しかし、そのためには、全ての教員の専門性の向上が必要となる。教員の多忙な現状が叫ばれる中で働き方改革も進んでいる所ではあるが、子どもたちの多様なニーズに的確に応えていく為には、全教員が特別支援教育への研修に参加できるような工夫も必要だと感じる。また、通常の学級における授業のユニバーサルデザイン化の取組を推進していく事も、これからは必要となってくると感じた。

更に、就学前から、卒業後まで、切れ目のない支援を保障するためには、学校単独では限界があり、他分野・他職種の外部機関との連携が必要となる。特別な支援が必要な子どもに対して、乳幼児期から学校卒業まで一貫した支援を充実する観点から、医療、保健、福祉、労働部局と家庭との連携体制や整備も必要。

#### 2・学校における医療的ケアと新潟県の現状

今までは医療的ケアが必要な子どもへは、病院へ教員が出向く訪問教育を行っていたが、近年、医療の発展により、医療的ケアが必要な子も通学できるようになったことで、学校内で医療的ケアのニーズが増加している。県の研修と認定を受けた教員も一部の行為を実施できるようになっていると知った。しかし、教員はあくまでも補助の立場で、学校看護師とセットでのケアが現状。学校における医療ケア児の対応が近年で進んできてはいるが、全国的に、学校看護師の確保と、学校看護師が不在の場合の対応が課題である。

今回の研修を受けて、柏崎市においても、「個別の教育支援計画」に力を入れ、どんな境遇の子も等しく教育を受けるために連携・協力できる体制づくりをしていきたい。また、医療的ケア児に対しても、安心して地域の学校で学べるよう学校長、担任、養護教諭、学校看護師、主治医、保護者が緊密に連携して取り組めるよう働きかけていきたいと感じた。